

麻しん(はしか)について

H31. 2. 20

現在、関西地方で麻しん(はしか)の患者数が増加しています。
※2月20日現在 香川県での患者発生の届出はありません。

○麻しん(はしか)とは？

感染力が極めて強い「麻しんウイルス」に感染することによって発症する感染症です。免疫がなければ、感染者と同じ空間にいただけで感染し発症する危険性が高くなります。

1か月以内に、海外(アジア・アフリカ・ヨーロッパ諸国等)や現在国内で患者が多数発生している関西地方、人が多く集まる場所等に行っていた方で麻しん(はしか)を疑う症状がある場合は、更なる感染拡大の予防のため、公共交通機関の使用や、人が集まる場所に行くのは避けていただき、事前に医療機関に電話連絡し、症状や行動歴等を伝え、医療機関の指示に従い受診してください。

○感染経路は？

空気感染、せきやくしゃみ、会話などによる飛沫感染、患者の唾液や鼻水の中にあるウイルスに直接または間接的に触れてしまうことで感染します。

○潜伏期間と症状は？

10～12日間(最大21日間)の潜伏期間を経て、発熱、咳、鼻水、結膜の充血等の症状が数日続きます。その後、口の中に白い粘膜疹(コプリック斑)が現れることもあります。一旦熱が下がったようにみえますが、またすぐに高熱が出て、赤い発疹が出始め、全身に広がります。

肺炎、中耳炎等を合併することがあり、まれに脳炎を合併することもあります。治療方法は特になく、対症療法のみですので、予防することが大切です。

予防するためには？

麻しん(はしか)は、ワクチン(麻しん風しん混合ワクチン)を2回接種することで、予防することができます。

麻しん風しん混合(MR)ワクチンの定期予防接種対象者は、①1歳児、②小学校入学前1年間です。(定期予防接種については、お住まいの市町にお問合せください。)

また、定期予防接種対象者以外の方についても、ご自身を守るために母子健康手帳等で予防接種歴や麻しん(はしか)にかかったことがあるか確認を行い、1歳以上で未接種の場合、小学生以上で2回の接種記録がない場合、麻しんにかかったことを検査で確認できていない場合、麻しん(はしか)に対する抗体免疫がないか低い場合は、予防接種をおすすめします。

<参考>

	麻しんワクチン接種の状況 (0歳での接種は接種回数に含めません)
昭和47年以前生まれの方	定期接種は行われていないが、自然に麻しん(はしか)にかかったことが多い世代でもあり、免疫がある人とない人がいる。
昭和47年～平成元年以前生まれの方	定期接種対象者だが、接種回数が1回であり、麻しん(はしか)に対する免疫が低い可能性がある。
平成2年以降生まれの方	定期接種対象者で、2回接種の世代。母子健康手帳を確認し、1歳以上で2回接種していれば、感染の可能性は低い。

※過去に、麻しん(はしか)にかかったことが確実である場合は、免疫を持っていると考えられます。

